

空間

【発達領域】空間の理解



ベビーマッサージ、ふれあい遊び、わらべうたを通して、保育者と子どもと一対一のゆったりとした関わりでのリラックスの時間とともに、触れた部位や感じたことを言葉にし、伝えてきました。

お部屋には赤ちゃん人形を常に置いていて、子どもたちは実際に赤ちゃんに触れたり、お世話をしたりしています。

自分が体験したことを再現しているかのように、赤ちゃん人形を持ってきて足をあげてみたり、「目は？口は？」などの質問をすると赤ちゃん人形や自分のその部位を指さす姿が見られました。

また、保育者や友だちの顔に手を伸ばして、ほっぺや耳を触ることも増え、“顔”という認識、その他の部位の名前の理解も出来てきているように感じました。

食事の時間でも子どもたちの姿が変わってきました。

鏡で見たり遊びの中でたくさん触れてきて、顔のパーツの位置の理解ができてきたからか、お味噌汁を飲むときにちゃんと口元にお椀を運ぶことができたり、食事で手や口を拭く際に声をかけるだけで自らその部位を拭くことが出来るようになりました。

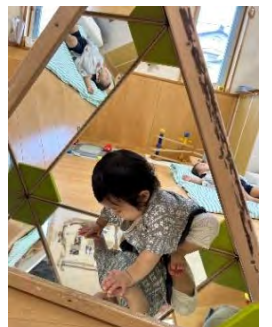
普段の遊びで、人形や自分の体を見たり触れたり比べたりすることで、ボディイメージがついてきたと感じた1カ月でした。

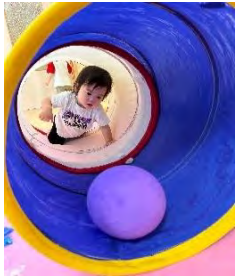


お部屋にある鏡をじっと見つめ、「め」という子や、鏡に映る自分の姿を見て笑いかけたり、手を合わせたり、顔を動かすと同じ動きをするから不思議そうにしている子どもの姿が見られました。三面鏡では、色んな方向に自分の姿が映るので、あたりをキョロキョロしたり、「上にも下にも映ってるよ」と指を指してみるとしっかりその方向に目を向けることもできるようになってきました。子どもたちは人の動きだけではなく、表情も良くみています。保育者が悲しい顔、怒った顔、笑った顔、変な顔をすると真似して同じように表情を作る子もいたり、鏡を見て自分の顔をみていたりします。

言葉がなくても人の表情ひとつで気持ちを伝えることができるんだということに気づかされました。

また、シュシュやヘアバンドを置くと、これは頭につけるもの、サングラスは耳にかけて目に付ける物、と理解し自分たちでつけようとする姿も見られました。





トンネルを初めて見た時は覗き込んでみるものの中に入ることに戸惑いを見せる子が多くいました。

お友だちや先生たちがトンネルを通り抜けて見せると、徐々に慣れていき、はいはいで入ってみたりお友だちの後を追いかけてみたり、トンネルの中で寄りかかり、一人の空間を楽しむ姿も見られました。

はいはいをすることは、体幹が鍛えられたり、手足の使い方や体のバランス感覚を鍛えることにもつながってくるため、今の時期特に大事な動きとして遊びに取り入れています。

また、ボール遊びでは転がってくるボールをタイミングよくキャッチしたり、投げたり蹴ったりし、全身を使って遊んでいます。

遊びの中で登ったり降りたりすることで、高い・低い、ボールの大きさが大きい・小さい、転がるスピードが早い・ゆっくりなど、言葉と感覚の一致ができるよう動きながらたくさん声をかけてきました。

子どもたちからも「おっき！ポンポン、いった！」とたくさんの言葉が出るようになりました。



プールや沐浴では汗を流してすっきりした感覚や、つめたい・あったかいなど、実際に肌で感じたことを言葉にし、伝えてきました。

また、水面をたたいて出るパシャパシャという音、じょうろから流れ出るジャーという聞こえる音を言葉にしたり、触れている部位や使っている部位を保育者が言うと「手！足！頭！」と真似して言い、その部位を水面から出して見せたり、その部位に手をやったりする子もいました。

遊びや体験を通し、感覚や、五感を使って言葉との一致に繋げることが出来ました。



Happy Birthday

7月生まれのおともだち

